5つの森林活動

みなさまの参加を お待ちしております



小手澤の森 第1・3日曜日



知足の森 第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森 小原本陣の森 草莽荘の森 不定期活動

Letter

NPO法人緑のダム北相模 midorinodam.jp



【定例活動報告】

草莽荘(そうもうそう)の森

台風16号通過後の、抜けるような晴天の一日であった。前回の続きの嵐 山残材の最終処分に向けた作業を行いこれをもって嵐山撤退作業が終了し たこととなる。早2年の歳月が流れる一大事業が完結したことになります。 NPO活動に日夜汗を流して楽しく活動されている団体は多いと思います が、呉々も地主さんとの利用、使用契約の期間等に関する取り決めをしっ かりしておくことで、より安心して楽しく活動に打ち込めるものと老婆心 ながら申し上げておきたいと思います。

緑のダム北相模は相模原 市内で活動する森林ボラ ンティアです。急がず、無 理せず、楽しく、休ま ず、ボチボチと・・。





雨の日が続いて活動の予定が立てられず困っています。コロナの緊急事態宣







言も解除に働くことになり元の新しい社会が動くことになります。緑のダム北相模も新拠点で、子どもがつくる山づくりSDGsの森をはじめとする様々な活動が期待されます。

小原の畑もしっかり定着してきました。肥沃な黒土の畑では巨大なサツマイモが収穫できたり、何しろ 美味しい野菜が採れます。我が相模原湖畔の「草莽荘」は地主と使用契約を交わしたうえで森林整備の歴 史を刻んで行きたいと思います。

小林 照夫(本会、理事)





【定例活動報告】 知足の森

第1日曜日の活動では主に、左奥の密集している木や腐っている木を切った。前日に台風が来ていたこともあり、地面がぬかるんでいた上に、木が立っている所の斜面がとても急だったので、足場を確保するだけで一苦労だった。奥に入るにつれて暗くなっていき、気温も下がっていた。

午後は1人1本木を切ることになった。私が切ることになった場所は午前よりも斜面が急で体勢をつくるのが難しかった。今まで1人で木を切ったことがなかったのでうまく切れるか不安だった。細い木だが、受け口をつくるだけですごく時間がかかってしまった。いつも何気なく先輩方が受け口を切ってくれていたけれど、それはとても綺麗ではやく、改めてすごいなと感じた。今までも木を切ってき

たが、状況の悪い中自分で木を切ったこともあり今までとは違った達成感や楽しさを感じることができた。これからたくさん木を切って練習して先輩方のように上手に切れるようになりたいと思った。

蘆田 莉央(GREEN TECH ENGINEER LAB 中学1年)

今日は、緊急事態宣言が解除され、久しぶりに活動を行えた。午前と午後両方で間伐を行った。定期的に森に通っていた頃は、山に行って決まった場所を間伐するということが習慣になっていて、森全体を見ることが少なかった。しかし、今回期間を開けて来たことにより、森を俯瞰的に見ることができた。俯瞰的に見ることで私たちが今まで間伐をしてきた場所が、始めは真っ暗だったのが、木々の間から木漏れ日が入り、地面にも小さな草が生えるようになったという変化を感じることができた。普段の私たちは日本の森のごくごく一部というとても小さい範囲の活動をしているが、小さくても森を守るということに貢献しているということを実感した。

私のチームは木を切り倒すのにとても苦戦した。木を倒す時、何本も他の木が引っかかってしまったからだ。今までの場所とは違い、とても木が密集している場所だったため、普段よりも木が引っかかりやすかったのだと思う。木がある程度間伐された中で切るのとは違い、初めて人が入る場所では、木を思い通りの方向に確実に切り倒すという技術が必要だ。今の私は、このような技術を完璧に習得出来ていない。だからこれからもっと木を切る経験をして、技術を向上していく必要があると、強く思った。

飯室 智春(GREEN TECH ENGINEER LAB 中学2年)

第3日曜日は雨が降り間伐ができなかったため、お寺で座禅の作法を教わりました。喝を入れるのにも 上手い下手があるということを知り、とても驚きました。

午後になり雨が弱まった後、森に入り座禅を組みました。普段間伐をする際はノコギリで木を切る音はもちろん、皆のかけ声や木が倒れる音などの様々な音が聞こえますが、今日は打って変わり雨の音だけが聞こえました。その不規則とも規則的ともいえない雨の音はとても気持ち良く、より一層集中することができました。また、上を見ると、木々の間から降ってくる雨があり、普段は意識して見ないためか、いつもと違う特別な感じがしキレイでした。

今回は普段の定例活動では入ることのできない森の奥まで進むなど、座禅も含み、とても貴重な体験ができ楽しかったです。 望月 絢(GREEN TECH ENGINEER LAB 中学 1 年)



桜井尚武の 森のコラム



図1 コナラから出たフラス 20211009 草戸山



図2 近づいて見た穿孔とフラス 202110 草戸山



図3 カシノナガキクイムシ

201510 森林総研HPより

「なら枯れ (Japanese Oak Wilt)」

2021年10月に青梅丘陵の草戸山(364m)を歩きました。そこでコナラになら枯れ病(「ブナ科樹木萎凋病」と名付けられた伝染病でブナ属以外の樹種に被害が見られ特になら属に顕著)が発生しているのを見ました(図1)。近づいてみると樹皮に直径2mm位の孔が多数見られそこから木屑が出ているようですが穿孔が小さいため写真では定かには見えません(図2)。穿入した虫の排泄物と削り出した木くずの混じったものをフラスと呼びます。穿孔部位は概ね高さ2m程度以下に多く見られます。カシナガ被害を受けても枯れない個体がミズナラ33%、コナラで78%あったという調査結果があり、一度被害を受けた個体はその後に食害を受けても枯れにくいという結果も報告されていますので、当初考えられたように絶滅することはないという見方が広がりました。

ナラ枯れは材に穿孔するカシノナガキクイムシ(以下カシナガと呼ぶ)という体長4~5mm程度の小さな虫によって引き起こされます。国立森林総合研究所ホームページの「自然探訪」記事の写真を借りて図3に示しました。背中に菌の胞子を持ってナラ類の幹に穿孔し孔道の中で交尾して産卵し幼虫はその中で育ち6月上中旬から8月にかけて羽化脱出します。羽化は10月頃まで続くといいます。カシナガはこの孔道に持ち込んだ菌類を増殖させてその菌を食料にして成長・繁殖するのだそうです。そしてこの菌類が樹体の通導組織を破壊して、樹体を枯らすのだそうです

被害木は直径が20~30cm以上の大きな木に多く見られますが、それは10cm以下の小さい木では虫が樹体内で充分の活動が出来ないためだと考えられています。大きな木は50年以上経っている場合が多く、従来薪炭林として利用されてきたものが放置された結果のものと考えられ、里山の利用形態の変化が被害の加速に影響しているという見解があります。

これまで高標高地帯や日本海側に多く見られましたが、近年、太 平洋側でも伊豆から茨城に至る太平洋側で顕著になってきており、 本会の小林会員が森林インストラクターとして活躍している神奈川 県の沿岸地域でも大規模に被害が発生しているそうです。

枯れた樹体からカシナガが脱出し近隣の樹木を枯らすので、枯死樹木は脱出前に伐採し除虫除菌処理をして伝搬を防ぐ必要があるとされています。未処理の材を被害区域外へ持ち出すのは厳禁ですし伐根にも虫や菌類が居るので防除処理をしなければなりません。

桜井 尚武(本会、会員)

【事務局より】

さがみはらSDGsアワード優秀賞受賞しました

10月22日に相模原市主催のさがみはらSDGsアワード表彰式があり、優秀賞を受賞しました。表彰式には、中学生2名が出席し、表彰状を受け取り、簡単な活動紹介も行いました。今後も相模原市との連携を深めながら活動を継続していきたいと思います。また、受賞者によるオンライン活動紹介のイベントも今後予定されており、またご紹介いたします。

エコプロダクツ展に今年も出展します

今年も東京ビックサイトで行われるエコプロダクツ展に出展いたします。中学生も参加している東京学芸大Explaygroundとの共同出展とし、12月8、9、10日の3日間行われます。ニュースレター同封のチラシもぜひご覧ください。今回は、本会の間伐材を使用した子どもたちの制作物や活動紹介ポスターに加え、森のVR体験も準備しています。大学からは、木育と俳優業を目指す、キキちゃんこと前田彩世さんも参加されます。当日は本会スタッフ、前田さん、大学の先生方、間伐材制作をしている大学研究棟CLTcomboを寄贈くださった住友林業さんも会場におります。みなさまのご来場をお待ちしております。

NPO法人 緑のダム北相模

名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局:〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体:セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

コンサベーション・アライアンス・ジャパン

協働団体:神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱





参加にあたって:

初参加者は、9時15分までに JR相模湖駅前に集合です。服 装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑ら ない靴 成るべく皮製手袋、 万一の怪我に備えて保険証、 飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボ ランテイア保険の準備の他、 会として可能な限りの体制を 敷いていますが「怪我・事故 は、自己責任」です。







